

不世出のホッケー選手
ウェイン・グレツキー

日本における相撲と高校野球を合わせたほどの人気がある。ホッケー・シーン、特にナショナル・ホッケー・リーグが始まると、人々は仕事を手につかず、話題といえばもっぱらホッケーのことばかり——という仕儀にあいなる。

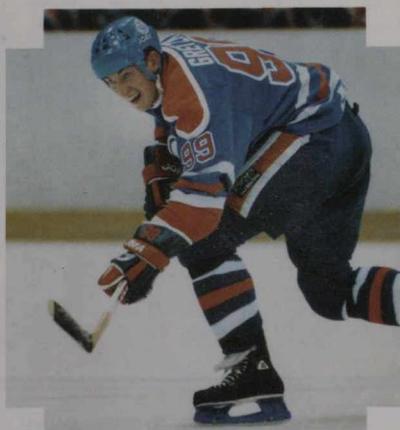
い。よちよち歩きのときから、そのころから人気のあつたテレビ番組「ホッケー・ナイト・イン・カナダ」を見て祖母の買ってくれたおもちゃのステッキを手に、彼女をゴールキーパーにして居間で選手のまねをしていた。二歳になると、祖母の家の裏庭で、初めてスケートをはいている。

七九年一月二十六日、オイラーズは十八歳の誕生日を迎えたグレツキーと二十一年間という超長期契約を結んだ。契約金は五百万ドルを下らないといわれた。そのシーズン、グレツキーは百十点を稼いで、WHAの年間ルーキー賞を獲得、チームも初めてWHAの最上位に進出した。

● カナダのニューメディアについては、特集やトピックスで何度もご紹介しましたが、今回は主に、ニューメディアがカナダで具体的にどう利用されているか、あるいはどういう利用法が考えられているか、という観点から特集を組んでみました。

● テリドンをはじめ、通信衛星などの活用などを見ますと、カナダはすでにニューメディア時代に突入した、といふ感じがしますが、いかがでしょうか。

● カナダの医療を取材してこられた日経メディカルの蓮池さんに、見聞記を寄せていただきました。カナダの医療も種々の問題を抱えているようですが、患者中心の考え方は変えて欲しくないものです。



The Citizen 提供

ふた回も年上の子供たちと一緒に、父じてゲームに参加、初めてそれ以来、「グレツキーあるところに勝利あり」といわれるほどで、毎年、勝利選手に選ばれ、相手チームを歯ぎしりさせた。

その年 オイラーはナショナル・ホッケー・リーグ（NHL）に加盟した。ビッグ・リーグ入りしたわけである。そしてグレツキーに対するエドモントン市民、いやカナダのすべてのホッケー・ファンの期待もさらに高まつた。グレツキーは、期待を裏切らなかつた。NHL新人シーズン最高得点、シーズン最高アシスト（補助プレー）得点、シーズン最高得点、ゲーム当りシ

世界ジュニア選手権でも大活躍、何度も最優秀選手賞を獲得している。

アナポリス・レーサーズと契約を交わし、プロに転向してからのことである契約期間七年、契約金が推定百七十五万ドルという破格の条件であった。特に、その翌シーズン、エドモントン・オライアーズに移籍されてからのグレツキーの活躍は目覚ましく、それまで毎回最下位だったチームが最前線に躍り出た。

出し、その試合は、連日グレツキーの
妙技を一目でも見ようというファンで
埋まつた。

背番号99 クレツキーは子供たちに
とっても、またホッケー好きの大人な
ちにとっても、現代のヒーローだ。

点は、八十回の試合を通じて毎回二点獲得することで、それまで不可能となっていた。どれほどの偉業か、想像でできるだろう。NHLの最優秀選手にもたて続けに選ばれ、カナダの年間最優秀スポーツマン（一九八〇、八二年）の栄誉にも輝いた。記録の更新はその後も続いている。

たい——というのがねらいですが、気に入つていただけたでしようか。（吉田）

● 次号から、カナダ在住のいろいろな方々に「カナダ便り」を書いていただくことになりました。お楽しみに。

● 本紙のレイアウトを変えてみました。

読みやすい、親しみやすい広報紙にしたい——というのがねらいですが、気に入っていただけたでしようか。(吉田)